

科目名	システム設計B						
科目名(英)							
単位数	6単位	時間数	90時間	担当者	姫野 マリ		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	情報システム専攻科 2年・情報システム科プログラミング専攻アドバンスコース 1年						
授業概要	システム設計における応用レベルの知識を習得する。前期のシステム設計Aで学習した知識を活用し、演習を通じて要件定義から各種システム設計書を作成することを目指す。 最終課題では、与えられた要件定義書から画面設計書、機能設計書、データベース設計書を作成する。						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
		○				与えられたシステム要件を把握した上で、画面設計書を作成できる。	
		○				与えられたシステム要件を把握した上で、機能設計書を作成できる。	
		○				与えられたシステム要件を把握した上で、データベース設計書を作成できる。	
テキスト・教材 参考図書	なし						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1-3	オリエンテーション 前期の復習					
	4-6	データモデリング応用演習1					
	7-9	データモデリング応用演習2				提出課題が時間内に完成しない場合、提出期限までに作成しておくこと。	
	10-12	データベース実装演習1					
	13-15	データベース実装演習2				提出課題が時間内に完成しない場合、提出期限までに作成しておくこと。	
	16-18	機能設計基礎演習1(クラス図作成)				提出課題が時間内に完成しない場合、提出期限までに作成しておくこと。	
	19-21	機能設計基礎演習2(シーケンス図作成)				提出課題が時間内に完成しない場合、提出期限までに作成しておくこと。	
	22-24	機能設計基礎演習3(機能設計書作成)					
	25-27	機能設計基礎演習3(機能設計書作成)				提出課題が時間内に完成しない場合、提出期限までに作成しておくこと。	
	28-30	設計応用演習(要件定義)					
	31-33	設計応用演習(画面設計)					
	34-36	設計応用演習(データベース設計)					
	37-39	設計応用演習(機能設計)					
	40-42	設計応用演習(設計レビュー)				提出課題が時間内に完成しない場合、提出期限までに作成しておくこと。	
評価方法	成果物の提出課題を数回実施し、下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	成果物提出		◎				80%
	出席状況・授業態度				◎		20%
履修上の注意	出席が30回(全45回)に満たない場合は単位認定できない。						

科目名	情報処理試験秋期対策ⅡB						
科目名(英)							
単位数	3単位	時間数	50時間	担当者	志水、打越、西野、久家、村上、柴内、木村(予定)		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員担当科目			
対象学科・学年	情報システム科・情報システム専攻科・情報工学科・電子システム工学科・ネットワークセキュリティ科 2年						
授業概要	経済産業省主催 情報処理技術者試験の出題範囲に準拠し、各受験区分のレベルに応じた用語や知識の習得を行う。さらに演習問題を使用し、実践的な解答方法の演習を行う。						
授業形式	講義: ○	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				試験範囲内の専門用語について学び、意味を説明することができる。	
		○				試験範囲内における様々なIT技術に関する仕組みについて説明することができる。	
テキスト・教材 参考図書	各受験区分で指示があります。						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1-5	IPAが提示するシラバスに掲載されている用語を理解し覚える。覚えた用語の定着のために、午前問題を中心とした演習を実施する。				確認テストの範囲の復習をしておくこと。	
	6	確認テスト				間違えた問題のやり直しを実施すること。	
	7-10	理解し、覚えた用語を実践的に使用する演習を、基礎的な難易度の午後問題を中心に実施する。				確認テストの範囲の復習をしておくこと。	
	11	確認テスト				間違えた問題のやり直しを実施すること。	
	12-15	理解し、覚えた用語を実践的に使用する演習を、応用的な難易度の午後問題を中心に実施する。				確認テストの範囲の復習をしておくこと。	
	16	確認テスト				間違えた問題のやり直しを実施すること。	
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。ただし、国家試験を定期試験とみなす。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	○	◎				100%
履修上の注意							

科目名	情報処理試験春期対策ⅡB						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	24時間	担当者	姫野、志水、村上、久保山、藤澤(予定)		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員担当科目			
対象学科・学年	情報システム科・情報システム専攻科・情報工学科・電子システム工学科・ネットワークセキュリティ科 2年						
授業概要	経済産業省主催 情報処理技術者試験の出題範囲に準拠し、各受験区分のレベルに応じた用語や知識の習得を行う。さらに演習問題を使用し、実践的な解答方法の演習を行う。						
授業形式	講義: ○	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	目標	
	○	○				試験範囲内の専門用語について学び、意味を説明することができる。	
		○				試験範囲内における様々なIT技術に関する仕組みについて説明することができる。	
テキスト・教材 参考図書	各受験区分で指示があります。						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1-5	IPAが提示するシラバスに掲載されている用語を理解し覚える。覚えた用語の定着のために、午前問題を中心とした演習を実施する。				確認テストの範囲の復習をしておくこと。	
	6	確認テスト				間違えた問題のやり直しを実施すること。	
	7-10	理解し、覚えた用語を実践的に使用する演習を、基礎的な難易度の午後問題を中心に実施する。				確認テストの範囲の復習をしておくこと。	
	11	確認テスト				間違えた問題のやり直しを実施すること。	
	12-15	理解し、覚えた用語を実践的に使用する演習を、応用的な難易度の午後問題を中心に実施する。				確認テストの範囲の復習をしておくこと。	
	16	確認テスト				間違えた問題のやり直しを実施すること。	
評価方法	(1)確認テスト(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	確認テスト	○	◎				60%
	出席状況・授業態度				◎		40%
履修上の注意							

科目名	UIデザイン演習B						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	中西 紘子		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	情報システム専攻科 2年・情報システム科プログラミング専攻アドバンスコース 1年						
授業概要	JavaScriptの基本構文を理解し、Webページに組み込むことができる。 jQueryを利用したWebページを作成することができる。						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				JavaScriptの概要、Webページの組み込み方法が説明できる。	
		○		○		jQueryを利用したWebページの作成ができる。	
テキスト・教材 参考図書	確かな力が身につくJavaScript「超」入門(ソフトバンククリエイティブ)						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	HTML、CSSの復習、JavaScriptとぼ(Chapter1イントロダクション)					
	2	Chapter2 アウトプットの基本					
	3	Chapter3 Javascriptの文法と基本的な機能1					
	4	Chapter3 Javascriptの文法と基本的な機能2					
	5	Chapter4 インプットとデータの加工1					
	6	復習、確認テスト					
	7	Chapter5 一歩進んだテクニック1					
	8	Chapter5 一歩進んだテクニック2					
	9	Chapter6 jQuery入門1					
	10	Chapter6 jQuery入門2					
	11	制作1					
	12	制作2					
	13	制作3					
	14	制作4					
15	制作の結果発表(ソースコード公開)、まとめ				提出物の期限に間に合うように作業をすること		
評価方法	(1)確認テストを1回実施する。(2)課題を数回実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	確認テスト(1回実施)	◎	◎				10%
	課題提出		◎		○		40%
	作品作成		◎		○		40%
	出席状況・授業態度				◎		10%
履修上の注意	出席が10回(全15回)に満たない場合は単位認定できない。						

科目名	アプリケーション開発演習B						
科目名(英)							
単位数	10単位	時間数	150時間	担当者	西野直幸・今村美穂		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	コンピュータ関係会社においてプログラマーとして勤務 コンピュータ関係会社においてシステムエンジニアとして勤務		
対象学科・学年	情報システム専攻科 2年・情報システム科プログラミング専攻アドバンスコース 1年						
授業概要	前期で学んだサーブレットの基礎にプラスして、データベース、MVCモデルを学び、より実践的で効率のよりプログラム作成を学ぶ。課題として本格的なWebアプリケーションを作成し、3年生の卒業研究につなげていく。						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	目標		
	○			○	MVCモデルを理解し、ソースコードの組み方、メリットを説明できる。		
		○		○	DBへの挿入・更新・取得をするプログラムを作成できる。		
テキスト・教材 参考図書	スッキリわかるサーブレット&JSP入門(インプレス)						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1-5	前期の復習					
	6-10	前期の復習					
	11-15	フィルター			演習課題を提出すること		
	16-20	DAOパターン(講義)					
	21-25	DAOパターン(演習1)			演習課題を提出すること		
	26-30	DAOパターン(演習2)			演習課題を提出すること		
	31	確認テスト			確認テストの勉強を行っておくこと		
	32	総合演習テーマ発表					
	32-35	総合演習(設計作業1)画面設計					
	36-40	総合演習(設計作業2)データモデル設計					
	41-45	総合演習(設計作業3)機能設計					
	46-50	総合演習(設計レビュー)			設計レビューに備えて、制作物を完成させておくこと		
	51-55	総合演習(開発作業1)			スケジュールの遅延分は自宅で制作すること		
	56-60	総合演習(開発作業2)			スケジュールの遅延分は自宅で制作すること		
	61-65	総合演習(中間レビュー)			開発中間レビューに備えて進捗を確認しておくこと		
	66-70	総合演習(開発作業3)			スケジュールの遅延分は自宅で制作すること		
71-75	総合演習(開発作業4)			スケジュールの遅延分は自宅で制作すること			
評価方法	(1)確認テストを1回実施する。(2)課題を数回実施する。(3)総合演習で作成した成果物を提出する。(4)授業の出席状況・授業態度を考慮する 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	確認テスト(1回実施)	○	◎				20%
	課題提出		◎		○		20%
	総合演習		◎		○		50%
出席状況・授業態度				◎		10%	
履修上の注意	出席が53回(全75回)に満たない場合は単位認定できない。						

科目名	一般教養ⅡB						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	畠添 正和		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	情報システム専攻科 2年 ・ 情報システム科アドバンスコース 1年						
授業概要	就職筆記試験に関して以下の対策を行う。 ①「SPIテスト」前期から継続し、数学分野(未実施分)を含め、解説&練習問題を行う ②「CAB・GABテスト」テキストに沿って、解説&練習問題を行う ③漢字ミニテスト 麻生塾の「ミニテスト」を利用し、漢字の練習 ⇒ 確認テスト を行う						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				就職筆記試験の練習問題に対して解答を説明できる。	
テキスト・教材 参考図書	最新最強のSPIクリア問題集(成美堂出版) 最新最強のCAB・GAB超速解法(成美堂出版)						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	CAB・GAB対策(その1)					
	2	CAB・GAB対策(その2) 、漢字対策(その1)					
	3	CAB・GAB対策(その3) 、漢字対策(その2)					
	4	CAB・GAB対策(その4) 、漢字対策(その3)					
	5	中間テスト(CAB・GAB一連テスト)、漢字対策(その4)				中間テストの範囲を復習しておくこと	
	6	CAB・GAB対策(その5) 、漢字対策(その5)					
	7	SPI数学分野の対策(その1)、漢字対策(その6)					
	8	SPI数学分野の対策(その2)、漢字対策(その7)					
	9	SPI数学分野の対策(その3)、漢字対策(その8)					
	10	SPI数学分野の対策(その4)、漢字対策(その9)					
	11	SPI数学分野の対策(その5)、漢字対策(その10)					
	12	SPI数学分野の対策(その6)、漢字対策(その11)					
	13	SPI数学分野の対策(その7) 及び SPI数学分野の小テスト				小テストの範囲を復習しておくこと	
	14	SPI性格検査、CAB・GAB性格検査OPQ SPI数学分野の小テスト				小テストの範囲を復習しておくこと	
15	SPI数学分野の小テスト 及び SPI国語分野の復習、定期試験対策						
評価方法	(1)授業の中で小テストを実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。(3)授業態度・出席状況を加味する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎				40%
	小テスト	◎	◎				40%
	出席状況・授業態度				◎		20%
履修上の注意	2/3以上の出席がない場合は単位を付与しない。						

科目名	ビジネスコミュニケーションⅡ						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	織田 拓郎		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	情報システム専攻科 2年・情報システム科プログラミング専攻アドバンスコース 1年						
授業概要	ビジネスでは個人で働くことはなく、グループでプロジェクトを遂行していく。したがって企画、営業、設計、製造などの工程や職種、業種に関わらずグループディスカッションでのコミュニケーション力、司会進行や議事録に関するスキルは必須である。本科目ではグループディスカッションで必要となるコミュニケーション力と論理思考力を講義と演習で学んでいく。						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
		○				グループディスカッションの目的と手法を理解し、グループで一つの意思に達することができる。	
		○				グループ内で役割を果たし、議論に貢献することができる。	
		○				論理的に考え、議論の結論と根拠を導き出すことができる。	
		○				アイデア発想法を理解し、発想型グループディスカッションに貢献することができる。	
テキスト・教材 参考図書	オリジナルプリント(授業レジュメ及び演習)						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	オリエンテーション ビジネスシーンにおけるグループディスカッションとは					
	2	ビジネスシーンでのコミュニケーション ビジネスシーンでの話し方と聴き方					
	3	グループディスカッションの基本 グループディスカッションの種類					
	4	自由討論型のグループディスカッション 演習Ⅰ				討論テーマについて調査をしておくこと	
	5	選択型のグループディスカッション 演習Ⅰ				討論テーマについて調査をしておくこと	
	6	論理思考の基本					
	7	論理的分析手法					
	8	Why型ロジックツリー 演習					
	9	How型ロジックツリー 演習					
	10	自由討論型のグループディスカッション 演習Ⅱ				討論テーマについて調査をしておくこと	
	11	選択型のグループディスカッション 演習Ⅱ				討論テーマについて調査をしておくこと	
	12	問題解決型のグループディスカッション演習				討論テーマについて調査をしておくこと	
	13	アイデア発想法					
	14	アイデア発想法 演習					
	15	発想型のグループディスカッション 演習 まとめ					
評価方法	(1)課題を数回実施する。(2)数回の演習を実施する。(3)出席状況、授業態度を加味する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	演習成果		◎				50%
	課題提出		◎				40%
	出席状況・授業態度				◎		10%
履修上の注意	出席が10回(全15回)に満たない場合は単位認定できない。						

科目名	就職実務 I B						
科目名(英)							
単位数	4単位	時間数	60時間	担当者	西野直幸、今村美穂		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	情報システム専攻科 2年・情報システム科プログラミング専攻アドバンスコース 1年						
授業概要	就職採用試験に提出する履歴書が作成できる。 求職票受付面接に合格し、面接試験を受ける準備ができる。 就職活動の申し込みができる。						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				就職採用試験に提出する履歴書の作成ができる。	
	○	○	○	○		求職票受付面接に合格し、面接試験を受ける準備ができる。	
テキスト・教材 参考図書	就職活動ガイドブック(麻生塾オリジナル) 簡単！面接練習帳 -ようこそ面接室へ (一ツ橋書店)						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1~2	前期の振り返り(履歴書作成)					
	3~4	履歴書作成、面接試験の概要、基本的な立ち振る舞い					
	5~6	面接練習1(挨拶、立ち振る舞い)					
	7~8	面接練習2(業界・職種の志望理由)					
	9~10	面接練習3(自己PR)					
	11~ 12	面接練習4(学業で頑張ったこと)					
	13~ 14	職種理解および履歴書作成(志望動機)				提出物の期限に間に合うように作業をすること	
	15~ 16	面接練習5(業界・職種志望動機)					
	17~ 18	面接練習6(業界・職種志望動機)					
	19~ 20	求職票受付面接試験					
	21~ 22	面接振り返り、企業アプローチの流れとマナー					
	23~ 24	企業研究1					
	25~ 26	企業研究2					
	27~ 28	企業研究3					
29~ 30	企業研究4				企業研究レポートを作成すること		
評価方法	(1)確認テストを1回実施する。(2)課題を数回実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準はR(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	履歴書提出	○	◎				30%
	求職票受付面接	○	◎	◎	◎		50%
	出席状況・授業態度				◎		20%
履修上の注意	出席が20回(全30回)に満たない場合は単位認定できない。						

科目名	ビジネスモデル概論						
科目名(英)							
単位数	4単位	時間数	60時間	担当者	久家 政人		
実施年度	2019	実施時期	後期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	情報工学科 3年・情報システム専攻科アドバンス2年						
授業概要	ビジネスモデルについて代表的な思考法を学ぶ ビジネスモデルを適切に分析する方法を学ぶ 考案したビジネスモデルの企画提案書を作成する						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				代表的なビジネスモデルの思考法が説明できるようになる	
		○				ビジネスモデルの基本的な分析ができるようになる	
テキスト・教材 参考図書	これから伸びる人の必修科目「ビジネスモデル」のきほん 翔泳社						
授業計画		授業項目・内容			授業外学修指示		
	1～2	ビジネスモデルはいつ、何に使えるのか?					
	3～4	「儲ける仕組み」を理解する					
	5～6	ビジネスモデルの構成要素					
	7～8	ビジネスモデルと事業計画の違い					
	9～10	ビジネスモデル・キャンパス・9セル					
	11～ 12	顧客価値提案の3大要素					
	13～ 14	顧客の状況をくみ取るツール(既存のビジネスモデル分析)			作業ペアを編成しておくこと		
	15～ 16	利益設計の3大要素					
	17～ 18	儲けないから儲かる(既存のビジネスモデル分析)			作業ペアを編成しておくこと		
	19～ 20	プロセス構築の3大要素					
	21～ 22	強みを認識する(既存のビジネスモデル分析)			作業ペアを編成しておくこと		
	23～ 24	センスをつけてみる(既存のビジネスモデル分析)			作業ペアを編成しておくこと		
	25～ 26	ビジネスモデルを作ってみる					
27～ 28	企画提案書の作成(提案書に必要な CTPT、問題解決)						
29～ 30	企画提案書の発表						
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。(2)課題・レポートを適宜実施する。(3)出席回数を評価し、授業態度の注意が多い学生に対しては減点評価をおこなう。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	◎				60%
	課題・レポート	○	○		◎		20%
	出席状況・授業態度				◎		20%
履修上の注意	パソコン持参のこと。課題・小テストについては、期限を守らない場合や基準を満たさない場合は、減点または補習または追加課題を設ける場合がある。						

科目名	システム開発応用技術 I						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	久家 政人		
実施年度	2019	実施時期	後期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	情報工学科 3年・情報システム専攻科アドバンス2年						
授業概要	業界の技術動向を知り、自らその技術を習得する。 実際に体験しながら機械学習を業務や作業にどう組み込んでいくかを学習する						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				目的に応じ適切な機械学習種類やニューラルネットワークの構成が選択できる	
		○				機械学習のアプリケーションへの活用方法の基礎が説明できる	
テキスト・教材 参考図書	すぐに使える! 業務で実践できる! Pythonによる AI・機械学習・深層学習アプリのつくり方 ソシム						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	環境構築			AWS のアカウントを作成しておくこと(事前指示あり)		
	2	機械学習で利用するデータの作り方					
	3	一番簡単な機械学習を実践する			GitHubアカウントの準備		
	4	顔検出 - 顔に自動でモザイクをかけよう					
	5	輪郭抽出 - はがきの郵便番号認識に挑戦しよう					
	6	自然言語処理・単語の意味をベクトル化してみよう					
	7	自然言語処理・自動作文に挑戦しよう					
	8	自然言語処理・SNS や掲示板へのスパム投稿を判定しよう					
	9	ディープラーニング・写真に写った物体を認識しよう					
	10	ディープラーニング・画像データからカタカナの判定					
	11	業務システムへ機械学習を導入しよう					
	12	ニュース記事を自動でジャンル分けしよう					
	13	Web で使える文章ジャンル判定アプリを作ろう					
	14	機械学習にデータベース(RDBMS) を利用しよう					
	15	料理の写真からカロリーを調べるツールを作ろう					
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。(2)課題・レポートを適宜実施する。(3)出席回数を評価し、授業態度の注意が多い学生に対しては減点評価をおこなう。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	◎				60%
	課題・レポート	○	○		◎		20%
	出席状況・授業態度				◎		20%
履修上の注意	パソコン持参のこと。課題・小テストについては、期限を守らない場合や基準を満たさない場合は、減点または補習または追加課題を設ける場合がある。						

科目名	情報処理試験秋期対策ⅢB						
科目名(英)							
単位数	3単位	時間数	50時間	担当者	志水、打越、西野、久家、村上、柴内、木村(予定)		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員担当科目			
対象学科・学年	情報システム科・情報システム専攻科・情報工学科・電子システム工学科・ネットワークセキュリティ科 3年						
授業概要	経済産業省主催 情報処理技術者試験の出題範囲に準拠し、各受験区分のレベルに応じた用語や知識の習得を行う。さらに演習問題を使用し、実践的な解答方法の演習を行う。						
授業形式	講義: ○	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				試験範囲内の専門用語について学び、意味を説明することができる。	
		○				試験範囲内における様々なIT技術に関する仕組みについて説明することができる。	
テキスト・教材 参考図書	各受験区分で指示があります。						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1-5	IPAが提示するシラバスに掲載されている用語を理解し覚える。覚えた用語の定着のために、午前問題を中心とした演習を実施する。				確認テストの範囲の復習をしておくこと。	
	6	確認テスト				間違えた問題のやり直しを実施すること。	
	7-10	理解し、覚えた用語を実践的に使用する演習を、基礎的な難易度の午後問題を中心に実施する。				確認テストの範囲の復習をしておくこと。	
	11	確認テスト				間違えた問題のやり直しを実施すること。	
	12-15	理解し、覚えた用語を実践的に使用する演習を、応用的な難易度の午後問題を中心に実施する。				確認テストの範囲の復習をしておくこと。	
	16	確認テスト				間違えた問題のやり直しを実施すること。	
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。ただし、国家試験を定期試験とみなす。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	○	◎				100%
履修上の注意							

科目名	情報処理試験春期対策ⅢB						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	24時間	担当者	姫野、志水、村上、久保山、藤澤(予定)		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員担当科目			
対象学科・学年	情報システム科・情報システム専攻科・情報工学科・電子システム工学科・ネットワークセキュリティ科 3年						
授業概要	経済産業省主催 情報処理技術者試験の出題範囲に準拠し、各受験区分のレベルに応じた用語や知識の習得を行う。さらに演習問題を使用し、実践的な解答方法の演習を行う。						
授業形式	講義: ○	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	目標	
	○	○				試験範囲内の専門用語について学び、意味を説明することができる。	
		○				試験範囲内における様々なIT技術に関する仕組みについて説明することができる。	
テキスト・教材 参考図書	各受験区分で指示があります。						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1-5	IPAが提示するシラバスに掲載されている用語を理解し覚える。覚えた用語の定着のために、午前問題を中心とした演習を実施する。				確認テストの範囲の復習をしておくこと。	
	6	確認テスト				間違えた問題のやり直しを実施すること。	
	7-10	理解し、覚えた用語を実践的に使用する演習を、基礎的な難易度の午後問題を中心に実施する。				確認テストの範囲の復習をしておくこと。	
	11	確認テスト				間違えた問題のやり直しを実施すること。	
	12-15	理解し、覚えた用語を実践的に使用する演習を、応用的な難易度の午後問題を中心に実施する。				確認テストの範囲の復習をしておくこと。	
	16	確認テスト				間違えた問題のやり直しを実施すること。	
評価方法	(1)確認テスト(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	確認テスト	○	◎				60%
	出席状況・授業態度				◎		40%
履修上の注意							

科目名	プロジェクト開発演習B						
科目名(英)							
単位数	16単位	時間数	240時間	担当者	久家 政人		
実施年度	2019	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	コンピュータ関係会社において システムエンジニアとして勤務		
対象学科・学年	情報工学科3年・情報システム専攻科アドバンス2年						
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・企業と連携し、顧客の要望をくみ取り、理解し、折衝しながらプロジェクトを進行させることを学ぶ。 ・チームによるアプリケーション開発作業を行い、問題点を適切に対処した「プロジェクト管理」を経験する。 ・詳細設計書に基づく開発を経験したのち、設計からの開発を実践する。 ・開発作業の成果物について「ドキュメント・ソース管理」を行う。 						
授業形式	講義： Δ	演習： ○	実習：	実技：	※ 主たる方法：○ その他：Δ		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
		○				チームによる開発作業において、スケジュール、問題管理を行える。	
		○				開発作業の生産物をソース管理ソフトウェアを使用して管理できる。	
		○				要件に応じた成果物を作成することができる。	
テキスト・教材 参考図書	プロジェクト実行ガイド大全(日経BP社) わかばちゃんと学ぶ Git使い方入門(シーアンドアール研究所) 「プロジェクトマネジメント」実践講座(日本実業出版社)						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1～17	試用理解・調査計画書作成・基本調査			以降、毎週金曜での進捗レビュー準備しておくこと		
	17～ 33	基本調査・調査報告書・設計概要書作成					
	33～ 49	基本設計書作成					
	49～ 65	基本設計書レビュー・指摘修正					
	65～ 81	詳細設計書作成・テスト計画書作成					
	81～ 97	詳細設計書作成・テスト計画書作成					
	97～ 113	詳細設計書作成・テスト計画書作成					
	113～ 129	詳細設計書作成・テスト計画書作成レビュー、開発					
	129～ 145	開発・テスト					
	145～ 161	開発・テスト					
	161～ 177	運用テスト					
	177～ 193	運用テスト					
	193～ 209	運用テスト					
	209～ 225	運用結果反映					
	225～ 240	発表準備					
評価方法	(1)プレゼンテーションによる評価会を実施する。(2)制作過程の進捗状況を評価する。(3)出席回数を評価し、授業態度の注意が多い学生に対しては減点評価をおこなう。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、R(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	発表・作品		◎				40%
	成果物提出状況		◎				40%
	出席状況・授業態度				◎		20%
履修上の注意	パソコン持参のこと。課題・レポートについては、期限を守らない場合や基準を満たさない場合は、減点または補習または追加課題を設ける場合がある。						

科目名	一般教養ⅡB							
科目名(英)								
単位数	2単位		時間数	30時間		担当者		
実施年度	2019年度		実施時期	前期		実務家教員 担当科目		
対象学科・学年	情報工学科3年・情報システム専攻科アドバンス2年							
授業概要	就職筆記試験における「SPIテスト」の対策を行う。 (1)非言語分野:SPIテキスト(非言語分野)前期から継続し、数学分野(未実施分)を含め、解説&練習問題を行う (2)言語分野:「CAB・GABテスト」テキストに沿って、解説&練習問題を行う							
授業形式	講義:	○		演習:		実習:		
						実技:		
						※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標		
	○	○				非言語分野の計算が基本通りに答えを求めることができる。		
		○				言語分野の練習問題をとくことができる。		
テキスト・教材 参考図書	最新最強のSPIクリア問題集(5月末に最新版を購入・配布)							
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示	
	1	②CAB・GAB対策(その1)						
	2	②CAB・GAB対策(その2)、③漢字対策(その1)						
	3	②CAB・GAB対策(その3)、③漢字対策(その2)						
	4	②CAB・GAB対策(その4)、③漢字対策(その3)					小テスト範囲の復習をしておくこと	
	5	小テスト(CAB・GAB一連テスト)、③漢字対策(その4)						
	6	②CAB・GAB対策(その5)、③漢字対策(その5)					小テストで間違えた問題の復習をしておくこと	
	7	①SPI数学分野の対策(その1)、③漢字対策(その6)						
	8	①SPI数学分野の対策(その2)、③漢字対策(その7)						
	9	①SPI数学分野の対策(その3)、③漢字対策(その8)						
	10	①SPI数学分野の対策(その4)、③漢字対策(その9)						
	11	①SPI数学分野の対策(その5)、③漢字対策(その10)						
	12	①SPI数学分野の対策(その6)、③漢字対策(その11)						
	13	①SPI数学分野の対策(その7)及びSPI数学分野のミニテスト						
	14	SPI性格検査、CAB・GAB性格検査OPQ ①SPI数学分野のミニテスト					これまで学んだ範囲を復習しておくこと	
15	①SPI数学分野のミニテスト及びSPI国語分野の復習、定期試験対策					定期試験対策で整理した内容を復習しておくこと		
評価方法	(1)授業の中で小テスト(小テスト)を1回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。(3)出席状況を加味する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。							
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合	
	定期試験	○	◎				40%	
	小テスト	○	◎				40%	
	授業態度など				◎		20%	
履修上の注意								

科目名	英語コミュニケーションB						
科目名(英)	English Comunication B						
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者			
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	情報工学科3年・情報システム専攻科アドバンス2年						
授業概要	未来のITエンジニアが身に付けるべきグローバルコミュニケーションスキルを習得する。毎回Warm Upとして基本文法と基本の発音演習により英語の苦手意識を取り除く。ITエンジニアがよく使う英単語、表現をインプットし、コミュニケーションの相手ごと(顧客、開発パートナー、ハードウェアベンダー、社内)にITビジネス現場で遭遇するシチュエーションでの会話を聞きキーフレーズを使えるようにする。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習: ○	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				基本文法を理解し、文章を組み立てることができる	
	○	○	○	○		基本の単語を正しく発音することができる	
	○	○				ITエンジニアがよく使う英単語、表現を使用することができる	
	○	○				相手とシチュエーションごとの会話ができる	
テキスト・教材 参考図書	・ナツメ社 ITエンジニアのための英会話&キーフレーズ ・技術評論社 問題解決力とコーディング力を鍛えるえいごのいろは ・The Japan Times 英語のリスニングは発音力で決まる! UDA式30音練習帳						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	1-1 動作や存在を表す`動詞				教科書の該当箇所を事前に読んでおくこと	
	2	1-2 時や場所の意味を補う`前置詞				教科書の該当箇所を事前に読んでおくこと	
	3	1-3 状態や程度を表す`副詞				教科書の該当箇所を事前に読んでおくこと	
	4	1-4 よく使われる前置詞・副詞				教科書の該当箇所を事前に読んでおくこと	
	5	1-5 省略されている主語を推測する				教科書の該当箇所を事前に読んでおくこと	
	6	日本語と英語の違いを意識しよう				教科書の該当箇所を事前に読んでおくこと	
	7	いろいろな情報をインプットする力を育てる				教科書の該当箇所を事前に読んでおくこと	
	8	英語でアウトプットしてみよう				教科書の該当箇所を事前に読んでおくこと	
	9	アウトプットを実践してみよう				教科書の該当箇所を事前に読んでおくこと	
	10	開発でよく使う英単語・表現				教科書の該当箇所を事前に読んでおくこと	
	11	開発時の課題に直面したら? 英語で検索する				教科書の該当箇所を事前に読んでおくこと	
	12	ライブラリのエラーに対処する				教科書の該当箇所を事前に読んでおくこと	
	13	コードは英語のネイティブスピーカーにとってどのように見えるのか?				教科書の該当箇所を事前に読んでおくこと	
	14	コーディングスキルアップのための英語				教科書の該当箇所を事前に読んでおくこと	
15	英語的な感覚をTDDに応用する				教科書の該当箇所を事前に読んでおくこと		
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。(2)毎回小テストを行う。(3)宿題として自分の発音、会話を録音する。(4)発表をおこなう。 以上を下記の観点割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	◎				50%
	小テスト	○	◎				20%
	宿題・レポート				◎		20%
	発表・作品			○	◎		10%
履修上の注意	出席が9回以上で定期試験の受験資格が得られる。						

科目名	就職実務 I B						
科目名(英)							
単位数	4単位	時間数	60時間	担当者	久家政人		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	情報工学科3年・情報システム専攻科アドバンスコース2年						
授業概要	前期に行った業界研究、履歴書(自己分析)を元に、業界・職種の志望動機を含めた履歴書を完成させる。 また、面接時のマナーや基本的な立ち振る舞いを学習し、面接試験対策を行う。 さらにエントリー企業の選択と受験時の心得を指導する。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法: ○ その他: △		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				就職採用試験に提出する履歴書の作成ができる。	
	○	○				求職票受付面接に合格し、面接試験を受ける準備ができる。	
テキスト・教材 参考図書	就職活動ガイドブック(麻生塾オリジナル) 簡単! 面接練習帳 -ようこそ面接室へ (一ツ橋書店) 世界一わかりやすい IT業界のしくみとながれ(ソシム)						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1~2	前期の振り返り(履歴書作成)					
	3~4	履歴書作成、面接試験の概要、基本的な立ち振る舞い					
	5~6	面接練習1(挨拶、立ち振る舞い)					
	7~8	面接練習2(業界・職種の志望理由)					
	9~10	面接練習3(自己PR)					
	11~12	面接練習4(学業で頑張ったこと)					
	13~14	職種理解および履歴書作成(志望動機)			提出物の期限に間に合うように作業をすること		
	15~16	面接練習5(業界・職種志望動機)					
	17~18	面接練習6(業界・職種志望動機)					
	19~20	求職票受付面接試験					
	21~22	面接振り返り、企業アプローチの流れとマナー					
	23~24	企業研究1					
	25~26	企業研究2					
27~28	企業研究3						
29~30	企業研究4			企業研究レポートを作成すること			
評価方法	(1)適宜レポート課題提出 (2)授業の出席状況・授業態度 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、R(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	履歴書提出	○	◎				30%
	レポート課題	○	◎				50%
	出席状況・授業態度				◎		20%
履修上の注意	出席が20回(全30回)に満たない場合は単位認定できない。						